

発表題目： インドネシアの伝統薬ジャムウの健康増進、疾病予防の役割  
—新興感染症の事例—

所属：京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科

氏名： 杉野 好美

1200 字程度で発表内容を記載してください。

現在、世界で新型コロナウイルス(以下 COVID-19)の感染が続き、ASEAN 諸国の中でインドネシアの感染者数と死亡者数が最多となっている[2020 年 8 月時点]。政府は COVID-19 の予防の 1 つに、「伝統薬ジャムウの飲用」を推奨している。ジャムウ(*jamu*)とは、主に植物を調合した「生の薬剤」で、ジャワ島を中心に多くの人々に、病気の治療や予防、美容、女性の月経・出産ケア、精力剤等で飲用され、狭義の医療だけでなく、健康増進飲料でもある。

過去の世界の感染症の歴史を振り返ると、治療薬が開発されるまで薬用植物や特定の食品が利用された。例えば、ヨーロッパでペスト菌の大流行時、医師は、香を焚いたガウンを着て、ニンニクやタマネギを持ち歩きながら患者の治療にあたり、マラリアの治療にキナノキ (*Cinchona*) の薬用植物が使用されていた。

このように、インドネシアでは COVID-19 の予防に、ジャムウの材料であるいくつかの薬用植物が抗ウイルス作用や免疫力を高める効果・効能があるとされ、ジャムウの需要が高まっている。そこで、本研究は、新興感染症である COVID-19 に対して伝統薬ジャムウの健康増進、疾病予防の役割を、(1)政策論、(2)技術論、(3)地域性と個人の信念の 3 つの分析軸から明らかにすることを目的とする。

研究方法は、インターネットなども含めた文献収集や統計調査と、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を利用したジャムウ関係者への聞き取りである(現在、現地調査が困難なため、それ以外の方法に限定される)。研究内容として、政策論では、COVID-19 に対してジャムウ活用の推奨の有無や感染症対策、技術論では、COVID-19 に対して科学的に有効なジャムウや薬用植物の有無とその内容、地域性と個人の信念では、COVID-19 に直面した地域社会や個人はジャムウを活用するか、3 つの分析軸から捉える。

結果として、政策論では、大統領や保健省を中心に、COVID-19 の予防の 1 つとしてジャムウの飲用を推奨していた。技術論では、国立薬草研究所や大学研究機関を中心に、インドネシアの薬用植物の科学的研究が開始され、これまでの研究で明らかになっている抗ウイルス作用のある薬用植物の利用を推奨していた。また、民間のジャムウ会社では、COVID-19 の予防にカユプテ(*Melaleuca Leucadendron* L.)の商品を製造販売し、すでに国内で人気が出ていた。さらに、地域性や個人の信念では、既製品ジャムウの需要が高まり店先から商品が品薄になったり、ジャムウの材料の需要が高まり材料の価格が一時高騰していた。このように、特効薬のない未知な新興感染症に対して、政府、研究者、地域住民のそれぞれの立場から、伝統薬ジャムウやジャムウの材料で利用される薬用植物の既存の経験や知識を活かし、免疫力維持のための健康増進や COVID-19 の予防に伝統薬や薬用植物を活用していることが明らかになった。